

# 神戸学院大学サマーボランティアプログラム

ボランティアを神戸学院大学の文化に

## ＜大学における学生ボランティア支援＞

神戸学院大学では、「学生のボランティア活動を正課外活動として位置づけ、ボランティア活動を通して学生の創造性、自主性及び社会性を育むこと、さらに学生及び職員などが地域社会へ貢献できるように支援することを目的」に、2005年4月にボランティア活動支援室を設置しました。

目的を達成するために、「地域の様々な課題に関する情報の収集と提供」、「活動に参加する学生相談とフォローアップ」、「活動の基礎理解の促進と活動リーダーの養成」、「学生の創造性、自主性及び社会性を育み、地域への貢献につながるボランティア活動の開発」などを行っています。「神戸学院大学サマーボランティア」は、それらの取組みの一環としてスタートしました。なお、春期の長期休暇期間（スプリングボランティア）にも、同様のプログラムを実施しています。

## プログラムの趣旨

「学生の新しい（ボランティア活動）体験をつくる」ことを趣旨としており、主に初心者学生を対象としています。

夏休みという学生にとって活動に参加しやすい長期休暇期間に、NPO や地域団体などからの募集活動をメニュー化し、一括して募集を行い、学生がボランティア活動に参加しやすい環境づくりをしています。このプログラムをきっかけに、学生が地域社会への関心を高め、自発的にさまざまな問題への関心や思考を育んで欲しいと願っています。



＜兵庫県・沖縄友愛キャンプ＞

### 神戸学院大学 サマーボランティア2012 ボランティアを神戸学院の文化に！

2012年の夏休み、  
ボランティア活動に参加する学生を募集します。  
あなたの新しい可能性を発見してみませんか？

自分と他者、そして地域や社会の「元氣」をめざし、  
学生の積極的な参加が期待されています。



■夏休み期間の内、8月13日(月)～8月12日(水)のボランティア活動の  
メニューを大学中「ボランティア活動支援のページ」で紹介しています。  
※活動にはそれぞれ規定がありますが、先着順となります。(一部例外あり)  
※対象期間であれば、自分でみつけてきた活動も補助の相談に応じます。

■上記で紹介した活動の「保険代」、「交通費」、「宿泊費」、「参加費」  
の補助を行います。  
※事前研修会と事後研修会(裏面に日程等の詳細)への参加が条件です。  
日程が合わない学生は個別に対応しますので、事前に申し出て下さい。  
※補助金の支払い手続きは活動終了後の事後研修会で行います。  
事後払いです。一旦、自己負担となりますのでご注意ください。

■申し込みは、KAC・KPCボランティア活動支援室で受け付けます。  
※裏面の「サマーボランティアエントリーシート」に必要事項を  
記入してKAC/KPCボランティア活動支援室へ持参してください。

- 有瀬キャンパス ボランティア活動支援室  
開室日・時間 月～金曜日 9:30～17:00(祝日は閉室。休憩11:30～12:30)
  - ポートアイランドキャンパス ボランティア活動支援室  
開室日・時間 月～金曜日 10:30～16:30(祝日は閉室。休憩11:30～12:30)
- ※開室日につき、ボランティアコーディネーターが常駐しています。

## 《これまでの活動実績》

### 【2009 年度】

- ・サマーボランティア 16 活動 (13 団体)、のべ 46 人の学生が参加
- ・スプリングボランティア 16 活動 (12 団体)、のべ 64 人の学生が参加

### 【2010 年度】

- ・サマーボランティア 21 活動 (18 団体)、のべ 82 人の学生が参加
- ・スプリングボランティア 14 活動 (12 団体)、のべ 75 人の学生が参加

### 【2011 年度】

- ・サマーボランティア 23 活動 (18 団体)、のべ 64 人の学生が参加
- ・スプリングボランティア 12 活動 (9 団体)、のべ 70 人の学生が参加

### 【2012 年度】

- ・サマーボランティア 27 活動 (20 団体)、のべ 147 人の学生が参加

## ＜サマーボランティアの案内＞

# 神戸学院大学サマーボランティアプログラム

ボランティアを神戸学院大学の文化に

## < ボランティア活動への学生の参加動機 >

### ■ 具体的なテーマや活動対象への関心

- ・国際交流に興味があったし、人として成長したいと思った。
- ・農業に興味があり、実際に野菜を植えたり収穫したりするなどをしてみたかった。
- ・普段、障害者の方と接することがないので、障害者の方とふれあってみたかった。
- ・子ども達と接することを通して、子ども達への理解を深め、様々な立場で子どもを育てることへの意識を深めたいと思った。



< 障害児ボランティア体験「のびのびプール」 >

### ■ ボランティア、地域活動への関心

- ・活動を通して学べることがあると思い、自分にできることをしたいと思った。
- ・今までボランティアはしたことがなく、この機会にいろんな勉強をしたいと思った。



< 子どもデイキャンプ >

### ■ 体験を通して成長したい

- ・人見知りの改善
- ・仕事への理解を深めると共に私自身も成長したいと考えた。
- ・自分の大学生活における経験を得ようと思ったため。



< 京都観光地清掃活動プログラム >  
※学生が立案・実行した活動

### ■ 貢献したい

- ・ボランティアを通じて人の役に立つようなことをしたかった。
- ・ブドウの収穫を通して地域の方々へ貢献したい。

この活動で集めたゴミは 10kg  
ひとりひとりの心構えで、  
このゴミはなくなるはず…



(神戸学院大学 ボランティア 2009 年報告書から一部抜粋)

# 神戸学院大学サマーボランティアプログラム

ボランティアを神戸学院大学の文化に

## ＜神戸ワインぶどう農園で収穫体験＞ 2009年サマーボランティアプログラム

### 【学んだこと・感じたこと】

私たちが食する物、手にする物は目に見えない所で沢山の人の協力の過程がなければ、存在しないということ学んだ。ワインが店頭で並ぶまでに、ブドウが良い状態に実らなければ出荷に影響が出る、収穫に何人もの人手や、何日もの日々を要すること、ブドウのなりが雨や天候の悪化で大きな影響を受けること、ワイン用と食用では実り方や種類も異なることなど収穫を通して私の中でのブドウの常識が間違っていたことを沢山学んだ。また、初めての農作業や人間関係に不安を感じていた私に山口さん夫妻はじめ農園で共に作業をした方が温かく接して下さった為、充実した素敵な経験となった。人の成長には、人との温かい交流が大きな意味をもつのだと感じました。

＜参加者：人文学部3年次生 女子＞

### 【活動受入団体からの声】

9名の申込みがあったが、収穫の日程が間際にしか決めることができず、結果的に2名の学生に参加してもらいました。学生にはよくがんばってもらいました。来年も、同様に学生ボランティアの募集をしたいと思います。

※プログラム終了後、今年のブドウで作った神戸ワインを参加した学生2名にいただきました。

＜ブドウ農園経営者 山口克文さん＞

### 【学生の気づき・学び】

農業（野菜、ブドウ収穫）と林業の体験プログラムをメニューに組み入れたことで、それらの第一次産業や自然や食に対する理解を深める機会となっている。また、それに留まらず高齢化が進む地方の農業経営者との交流が学生にとっても新鮮で思い出深い体験となったようだ。

（神戸学院大学 サマーボランティア 2009年報告書から一部抜粋）

## ＜サマーボランティアの活動を通して＞

サマーボランティアに参加した学生の感想の中に、「活動の意識の低さや責任感のなさ」を痛感した学生がいた。国際交流キャンプに参加した学生からもである。本キャンプは神戸市のNPOが主催するもので、大学生が主体となって企画、準備するものであった。この学生は、他大学の意欲的な学生と自分の参加姿勢を比較してその不足を実感しているのである。活動に参加していなければ出会えなかった他大学の学生と仲間になり、その自発的な姿勢に触発されている。今回の活動が「自分を見直すきっかけになった」と報告している。

以上から、今回の活動体験が、学生にとって学びの機会となったことは疑いのない事実である。学生にとって、学びの場としての現場の多様さ、自由さ、そして受け入れの懐の深さは魅力である。

さらに、学生は、活動メニューの中から自ら選び取り、目的意識をもって自発的に参加しているので、取り組みへの粘り強さがある。サマーボランティアプログラムは、それを実現した正課やクラブ活動に並ぶひとつの特性をもった教育のしくみであったと評価できる。

# ポートアイランド学生チャレンジショップ

## ＜学生チャレンジショップの誕生＞

ポートアイランド(神戸市中央区港島)のまちは、神戸の中心地に近く、「海の港」と「空の港」に隣接した利便性・安全性に優れたコンパクトなまちであり、神戸市が次世代型港湾都市としてのみならず、国際観光都市、ファッション都市、コンベンション都市、医療産業都市、デザイン都市などの都市構想を実現する「神戸のシンボル」として整備してきたまちである。しかしながら、まち開きから約30年が過ぎ、住民の高齢化・店舗の陳腐化や撤退が進行し、しかも阪神淡路大震災の甚大な影響や、同時期の経済構造の変革により、三宮の復興に比べ、ポートアイランド地域の経済的落ち込みはひどかった。

2007年4月には、既に設置されていた、神戸女子大学、神戸女子短期大学に加えて3大学(神戸学院大学、神戸夙川学院大学、兵庫医療大学)が進出し、ポートアイランドに「知の港」としての要素が加わったが、学生と住民、学生と企業、進出他大学学生間の繋がりなどが希薄であった。

以上のようなポートアイランドの現状から、ポートアイランドの活性化に貢献してほしいとの地域からの要望や行政側のまちづくりへの熱意などによりこの学生チャレンジショップは誕生しました。



＜オープニングセレモニー：テープカット＞



＜オープニングセレモニー：学生による団結式＞

## ＜目 的＞

学生で運営するチャレンジショップは、大学と学生が地域と共に「学び」を実践する場であり、ポートアイランド内の各大学と地元の自治連合協議会及び企業、行政との連携により、ポートアイランドの賑わいと人々の交流の創出をめざします。コンセプトは、住民、学生、企業の連携の「絆」のもとで、地域の活性化に寄与することである。

＜オープニングイベント：アシックスによる足型測定相談会＞



# ポートアイランド学生チャレンジショップ

## オリジナルイベント

### < 凧つくり・凧揚げ大会 >

ものづくりや昔遊びなどを通じ、学生・子ども・保護者・高齢者の交流を深めることを目的に現在までに3回実施しました。

凧つくりは子どもたちが大学生と一緒にいき、凧揚げ大会当日に持参。当日は港島小学校の子どもたちをはじめ、幼稚園児を連れてきた家族など、約100人が訪れ大変賑わいました。またコマまわしなどの昔ながらの遊びを地域の高齢者から教えてもらったり、紙飛行機を作って飛距離を競う「紙飛行機大会」を開催したりと大好評。子どもたちは、大学生のお兄さんやお姉さんたちと一緒に遊んだ楽しい思い出の一日となりました。



< 凧つくり・凧揚げ大会 >



< 紙漉き体験 >

### < 紙漉き体験 >

NPOの協力を得て、環境にやさしい「ケナフ」を学生と地域の方が協力して栽培し、収穫・紙すきを行い、その活動写真を展示することで、地域における環境問題への啓発となることを期待し実施しました。地域の方々や子どもたちと植草から水やり、台風対策を施し、無事育ちました。収穫やパルプ化などの作業を進め、紙すき体験会を保育園とチャレンジショップで実施。当日は学生たちがケナフの成長記録や解説をした後、紙すき体験としてケナフを細かく刻み水に溶かしたものを専用の木枠にすくい取り、形を整えて乾かし、オリジナルはがきを完成。子どもからは「ママに出す年賀状にしたい」と大変喜んでもらいました。

## 企業連携イベント

### < 和東茶イベント >

宇治茶の中でも至高のお茶、日本一の生産地である京都府和東町の「和東茶」。和東茶の認知度を高め、和東町のブランドづくりへの貢献と地域交流を目的にした3日間限定のアンテナショップイベントです。当日は日本茶のインストラクターによるおいしいお茶の入れ方講座や試飲、飲み比べ、お茶の葉を使ったプリンや佃煮、茶団子などの特産品の販売やカフェの営業、神戸女子短期大学パンクラブの協力を得て、和東茶を使用したパンの販売などを行いました。

学生たちはチラシ作製や配布など事前準備の段階から、当日の呼び込みや販売など、和東町の方々から色々な指導を受けながら茶摘み衣装や和東町の法被を着て活動し、ブランドづくりの大変さを体験。地域の方々からは大変喜ばれました。



< 和東茶の即売会 >